

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672900158
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス東市来
所在地	鹿児島県日置市東市来町長里880番地15 (電話) 099-274-7255
自己評価作成日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりのペースに合わせて対応しています。ベッド上で過ごしている時は、見守りしながら必要な時は会話しながら訴えを傾聴しています。週3回、透析に外出される方がおられ状態観察行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、母体医療機関と定期的な往診や緊急時を含めた24時間対応の医療連携体制が整っている。訪問看護師の健康管理も行っており、利用者及び家族の健康・医療面における安心に繋がっている。
・自治会に加入し、災害時協定書を自治会と交わす等、地域との協力体制を築いており、地域行事への参加や事業所の地域交流会・避難訓練に地域住民の参加があるなど地域との交流の機会が多く、良好な関係を築いている。中学生の職場体験・高校生の実習や毎週ボランティアを受け入れたり、住民からの野菜の差し入れもある。
・管理者及び職員は、新聞の個人購読や嗜好品の摂取・イベント時の踊り披露・洗濯物たたみ等、利用者個々のこれまでの習慣や趣味・役割の継続を大事に支援している。
・職員の質向上を図る為、研修受講の機会を設けたり、資格取得の勉強会実施等に取り組み、向上心を持って働けるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念「1、ゆっくりゆったりけれどもしっかり」「2、あったか地域であったか交流みんなで作ろうあったかの輪」の実現のため玄関、詰所、フロアに掲示しており、毎朝申し送りの際唱和し共有を図っています。	理念を事業所内の目につきやすい場所に掲示し、パンフレットや職員のネーム裏に記載している。毎朝ユニットの申し送り時に唱和して理念の共有を図っており、毎月の合同ミーティング時にケアを振り返り、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の方との交流会やボランティアを通して交流を深めています。また、毎週一回介護ボランティアも入っていただき、交流されています。	自治会に加入し、地域行事には気候等を考慮して参加している。地域交流会や避難訓練に住民の参加があり、ボランティアや中学生の職場体験・高校生の実習受け入れ等で住民と交流し、野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	事業所での実践を踏まえながら地域のさまざまな研修に参加し、認知症ケアの啓発に努めています。地域の独居老人についても災害時等の施設提供行い、人材育成の貢献として実習生、福祉体験学習の受け入れも積極的に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>偶数月に、第三者委員会、支所等現状報告話し合いの中でご意見、ご要望を取り入れながらサービス向上へ活かしています。自治会長さんを通じて、ホームへの協力をお願いしています。また、外部評価の報告も運営推進会議の際行っています。</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、事業所のヒヤリハットを含めた報告と意見交換を実施している。地域行事の情報を得たり、事業所行事への住民参加を依頼する機会でもあり、地域の協力を得ながらサービス向上に努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に参加された際、情報提供等連携が取れるように取り組んでいます。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や出向いて報告・相談を行ない連携を図っており、生活保護担当者とも同様に、来訪時や出向いの相談等で協力関係を築くように努めている。市や地域包括支援センターの研修に積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月のミーティングで身体拘束について勉強会を行っており、年2回講師を招いた勉強会を行っています。特に、入居者一人ひとりに合わせた声かけやケアを行い、支援しています。</p>	<p>指針を基に委員会を毎月開催し、研修会は年2回実施している。利用者個々に合わせた言葉使い等を検討しケアに当たっている。利用者の外に出たい様子を察知したら、職員と一緒に散歩やベンチで話をする等、職員の見守りと連携で制限のない生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月のミーティングで身体拘束と合わせて勉強会を行っています。また、年2回講師を招いて勉強会を行っています。声かけの仕方一つで気分を悪くされることもある為、勘違いや誤解のないように、また、不安や嫌な気持ちにさせないように対応しています。また、入居者様からの声かけも傾聴し、速やかな対応を行っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要な入居者がいるときは、運営者の指示に従って説明、アドバイスを行う支援体制ができています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に事業所の重要事項やケアに対する考え方や取組み、対応可能な範囲についての説明をしています。利用料金や生活で起こりうるリスク、重度化対応、医療連携体制について詳しく説明し同意を得るようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、家族でゆっくり過ごして頂けるよう時間を設け、本人の生活状況を伝え、家族、本人からの要望は受け入れ、職員間で解決できるところは解決し、検討することは、運営者、関係者に相談して検討しています。</p>	<p>利用者には、日常の会話や介護相談員との面談で要望等を聞いている。家族には、家族会や面会時に近況報告と共に要望等を聞いて、可能な限り反映させている。嗜好品の摂取を継続できるように対応した事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の管理者会議にて、相談会の機会があり、そこで出た内容や助言をホームに持ち帰り、管理者はミーティングや申し送り、申し送りノートを活用して職員へ報告しています。	ミーティングで職員の提案を聞く機会を設けており、ケアの統一や夜勤帯の業務を見直すなど、業務改善に反映させている。管理者は、個人面談や個別相談での対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接も運営者が関わっており、職員一人ひとりについても、管理者との個人面談にてここに合わせた業務を遂行するように指導されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療介護について専門の方をお呼びした研修体制が整っています。管理者、計画作成担当者だけでなく職員全員が自分の学びたい内容を計画し年間計画表を作成し、担当者を中心に実施しています。外部の勉強会、法人内の研修も積極的に参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間では、意見交換ができる状況にありますが、事業所連絡会を通じ、他の事業所との交流が図れるように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者、家族からの相談等、情報収集した内容を分析し、ご本人の求めていることや不安に思っていることを理解するために工夫し、よりよい環境で生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の意見、ご要望等を理解し、どのような対応がふさわしいかを事前に話し合いができるよう努めています。これまでの家族状況、生活履歴等をゆっくりお聞きし対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思いや状況等お伺いし、改善に向けた支援の提供、相談を繰り返しながら信頼関係を築き、必要なサービスにつなげていけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生のお先輩であるという思いを全職員が共有しています。ご本人の持っている機能や、趣味、経験を活かせる機会を作ったり、他の利用者との馴染みの関係作りができるような場面をつくり、穏やかな生活ができるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の普段思っていることを細かくご家族に伝え、ご本人が少しでも安心して喜んで頂ける雰囲気を作るように、家族とも協力しながら一緒に考えていきたいと思っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の今まで過ごしてこられた生活歴や環境、馴染みの関係を理解しながら、一人ひとりの状況に合わせた対応を工夫していきたいと思っています。	家族と外食や法事等に出かけたり、家族・知人の面会時に、居室でお茶を飲みながらゆっくり時間を取っている。手紙や電話の取り次ぎを支援する等、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性などを把握し、テーブル席の配置も考えています。また、職員を間に配置することで、孤立することがないように工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでも気軽に立ち寄れる関係性を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い、望む暮らしご家族と検討しながらその人の思いに少しでも近づけて行けるように支援しています。	居室等で1日1回はゆっくり話を聞く時間を取り、本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、家族の情報や本人の行動・表情等から推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を理解し、経験や趣味を生かした生活ができるよう支援し、できること、できないことを把握し職員間で共有するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を把握しできることは見守りうを行いながらしていただき、そのひとらしく過ごしていただけるよう支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族に普段の関わりの中で、ご意見、ご要望を尋ね反映させるようにしています。職員間でも意見交換やモニタリングを行い、ケアプランにつなげています。	担当者会議で本人・家族と話し合い、主治医の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、6ヶ月毎及び状況変化等の必要時に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記入し、バイタルチェックや水分量、食事量、身体状況及び日々の暮らしや本人の言動、行動、エピソード等を記録しケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況に応じて、職員間で情報共有しながら、変化があった時は家族の協力をいただきながら支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の地域住民の方、ボランティアとの交流会や消防、学校関係からの定期的な訪問があり周辺からのご理解・ご協力が得られるよう取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望されるかかりつけ医となっています。受診や通院はご本人ご家族の希望に応じて対応しています。事業所での協力医での医療を受けられるようご家族様と協力しながら通院介助を行っています。	契約時にかかりつけ医の希望を聞き支援している。母体医療機関の月1回の往診及び訪問看護師の週1回の来訪があり、他科受診は家族の協力を得て実施している。母体医療機関とは、緊急時を含めた24時間医療連携体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっています。介護職員との訪問介護との看護師とは気軽に相談できる関係ができており、看護師と医療機関との連携体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を入院連絡表にて医療機関に提供し、職員が見舞うようにしています。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応方針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っています。又状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や思いに注意を払い支援につなげています。	重度化等の場合の対応について契約時に指針で説明し、同意書をもっている。状況変化時の医師からの説明を家族に行い、職員も同席している。家族の意向を確認し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、緊急時のマニュアル、消防訓練による心肺蘇生法等を行い、初期対応の訓練に取り組んでいます。利用者一人ひとりの状態を把握し急変時、事故発生時に備えての対応の仕方などミーティング等で勉強会を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回利用者と一緒に消防訓練を行っています。地域の協力体制については、自治会にお願いしたり、運営推進会議で議題を出し、協力体制を作っています。また、近隣の職員や寮生からの応援体制もとれるようにしています。</p>	<p>年2回の避難訓練を消防署の立ち会いで実施している。自治会との災害時協定書を取り交わしており、訓練に住民の参加協力がある。隣接の法人職員寮の協力体制もある。非常用の備蓄は、水やレトルト食品・缶詰・米等を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った対応を心がけるよう、ミーティング時等に全員で話し合っています。	法人及び事業所で研修を実施している。一人ひとりに合わせた節度ある言葉遣いや入室時の声かけ・排泄介助時のさり気ない支援・申し送りは利用者に内容が分からないように配慮する等、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定の場面を多く作れるよう、その方に合った声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の生活に合わせ、心身状況に合った個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴の際、一緒に衣服を選んだり、散髪がしたいとの希望がある時は対応できるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し、その方に合った食事を提供しています。	職員が献立を作成し、刻み等の個々に応じた食事形態で提供し、利用者も下ごしらえと一緒にしている。誕生日のケーキや年越しそば・七草がゆ等の行事食で食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有しています。本人に合わせて、おかゆ、刻み等に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも個々に合わせ対応し清潔保持に努めています。週3回のポリデント洗浄行っています。また、月1回の訪問歯科にて診療して頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄に状況をチェック表に記録し、排泄パターンの把握に努めています。定時のおむつ交換やトイレ誘導、本人からの訴えがあった際は速やかに誘導を行い、清潔保持に努めています。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握している。昼間はトイレでの排泄を基本に支援しており、パターンに応じた誘導や本人の訴えでその都度対応している。状況に応じ、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便状況をチェック表に記録し職員間で共有し、本人の排泄パターンの把握に努めています。また、定期の訪問診療時に主治医への報告を行い指示をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の健康チェックを行い、希望に応じて入浴して頂いています。拒否がある時は、無理強いすることなく、タイミングをみながら入浴できるよう指示しています。	週2回午前中の入浴を基本に、体調により清拭や失禁時はシャワー浴も実施している。必要に応じて2人介助や同性介助にも対応しており、安全に配慮しながら個浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々レクリエーション活動や日中活動を多く取り入れ、夜間の安眠につなげています。また、寝付けないときは声かけを行い、落ち着いてもらうまで見守りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者一人ひとりの服薬状況を把握し、1週間単位で保管しています。誤薬防止のため、職員2名にて確認し、手渡しにて服用してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った役割や楽しみを共有しています。食事の準備や洗濯物の整理などしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気、本人の気分で状況に応じて季節を肌で感じてもらう為日光浴や散歩、行事の見学などで支援しています。	天候の良い日は、敷地内や菜園で散歩や日光浴をしたり、希望で買い物やドライブに出かけている。法人のバスを利用しての花見や文化祭・馬踊り見物等に出かけている。家族と外食や法事等で外出・外泊をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時は家族へ連絡し預り金として管理しています。本人の希望時一緒に買い物に出かけたり、ホームでの買い物の際に買いに行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援しています。面会時や電話連絡にて定期的に状況報告しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすく馴染みのものを取り入れ、心地いい空間を作るようにしています。フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え利用者が使いやすいように工夫しています。	リビングは天井が高く電動で開閉できる天窓もあり、ゆったりした広さで、畳スペースもある。室内は季節の作品や飾り付けがされ、室温等が適度に調節されている。キッチンから目配りが全体に届く造りで、通りやすいようにソファの配置を工夫する等、安全に配慮しながら居心地良く過ごせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の決まった場所があり、個々自由に長椅子やソファでくつろいだりと落ち着いて過ごせるスペースを確保しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、タンスの位置など利用者の使いやすい位置に配置したり、思い出の写真や手作りカレンダーを置いたり、本人の希望におうじて安全に移動できるよう工夫しています。</p>	<p>ベッドやタンス・クローゼット・エアコンが居室にあり、寝具はリースである。本人の使い慣れたテレビや時計を持ち込んだり、写真を飾り、家具の配置を利用者に合わせて工夫する等、本人が居心地良く過ごせる部屋作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状況に合わせて手すりや浴室、トイレ、フロー等居住環境が適しているか見直したり点検を行い、安全確保と自立への配慮を行います。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない